

募集班長の模型部屋（第9回）

雪国の皆さん、除雪お疲れ様です。私は上越市の雪国育ちで北海道勤務が長かったので、雪に抵抗感はありません（でも除雪はイヤ！）のですが、雪の無いところから雪国で勤務される方は大変な冬を迎えられていると思います。除雪に関連する事故も多いので、気をつけてくださいませ。さて、少し前に職場の上司に「齊藤1尉、戦車に詳しいそうだけど、中国ではどんな戦車を使っているの？」と聞かれ、「え、中国ですか？T-55の改造型の戦車かと思いましたけど・・・」と答えられなくて悔しい思いをしました。で、調べて作ったのが・・・



99式戦車です。

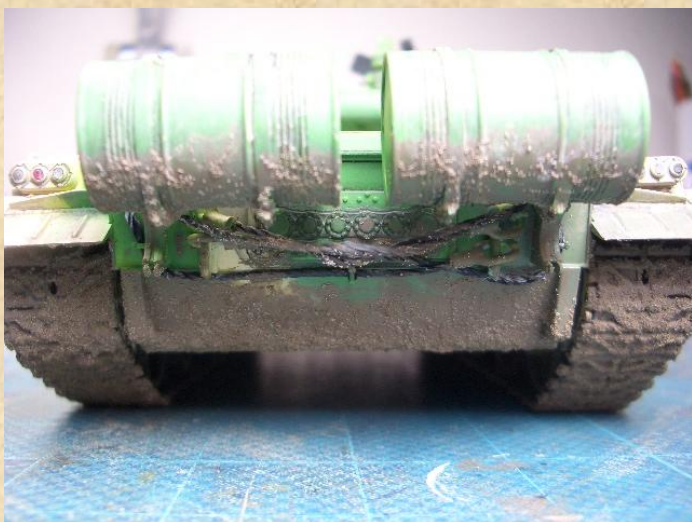
キットは、ブロンコ社のキットで秋葉原の模型店で購入しました。ホビーボス社のキットもあったので、腕組みして悩んだ挙句、店員さんに箱の中身を見せていただき、さらに、「私はブロンコさんをお勧めします」との店員さんの言葉で決めました。キャタピラもカステン並に一枚一枚組み立て式だし、転輪もサスペンションで上下に可動するし、作り応えがありました。キャタピラを一枚一枚連結するので時間を要して、2ヶ月くらいかかったかな・・・

完成したときの達成感は半端無かったです（笑）と言うより疲れました。色はグンゼカラーの指定色で塗装しています。

YouTubeで人民解放軍のパレードの動画があり、99式戦車を見たところ、強烈に塗装が難しい複雑なデジタル迷彩じゃないですか！「これは僕には無理、塗れない！」と、まだほとんどの99式戦車が塗装されているであろう曲線迷彩で塗装しました。



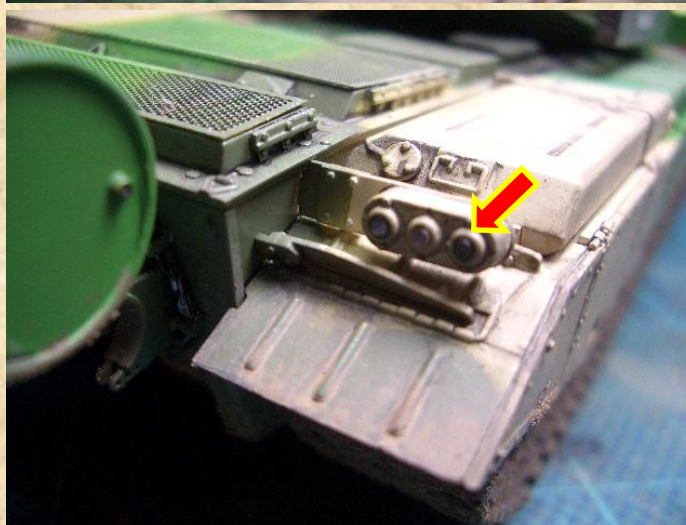
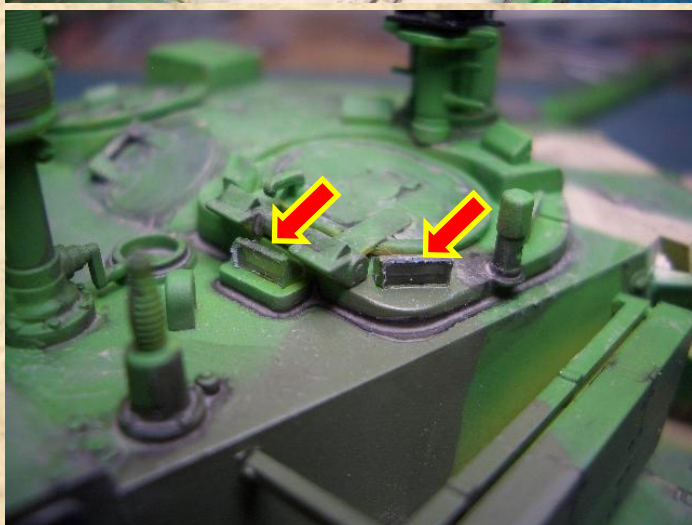
作りながら・・・なんかロシアのT-80の改造のような・・・感じを受けましたが、中国の「オリジナル」なのでしょう。砲身がむちゃくちゃ長くて砲身基部への負担がかかりそうです。近代的な戦車が隣の国にあるんだと再認識です。正直いって強そうな戦車に見えます。



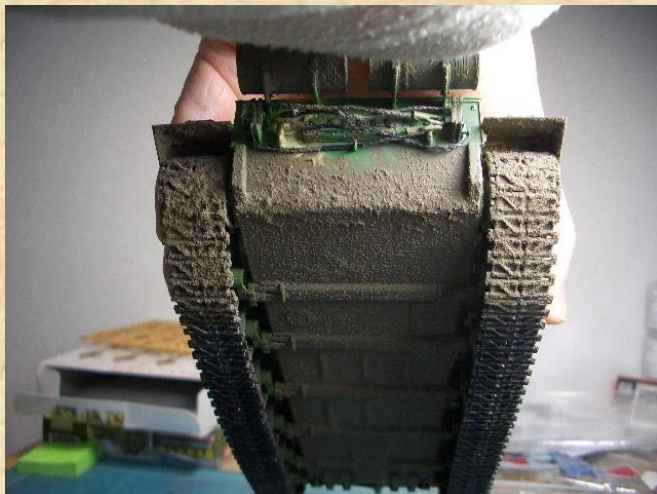
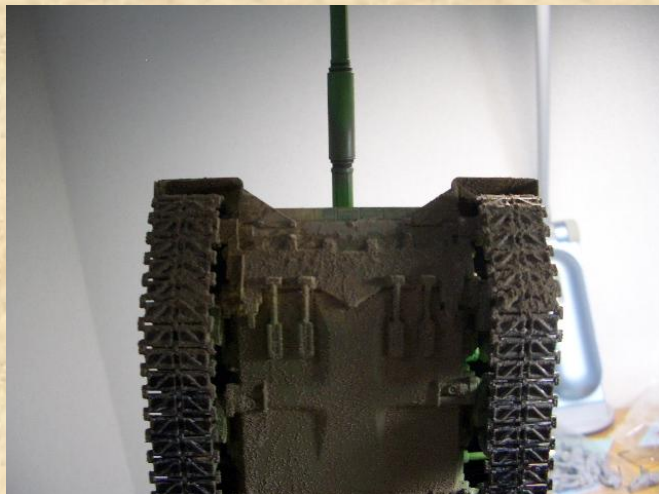
車体後部増加燃料タンク（いわゆるドラム缶）下部の泥ハネも表現してみました。下半分だけ泥は付着し、上半分の付着していない所との境界は雨で流れてぼやけているようにしたのですが・・・今後の課題です。実車がどのように泥ハネしているのか資料が無いので、74式戦車に乗っていた頃を思い出し、車体後部に積載したドラム缶の汚れ方を参考にしました。74式戦車も1缶増加燃料として車体後部に積載できるんですよ。その状況は、いろんなネット画像で紹介されているので、そちらを参考にしてください。



足回りはあまり汚しはしなかったのですが、ピグメントを使用したかったのですが、キャタピラと転輪の可動ギミックが固着しないように、過度に汚しませんでした。でも、やっぱり動きが固くなってしまいました。慎重に動かさないと壊れそう・・・



クリアパーツが多いので丁寧にマスキングする等、塗装の手順を良く考える必要があります。せっかくのクリア部分を塗りつぶしてしまうのは悲しいですもんね。でも、クリアパーツの裏側をシルバーにしたのはちょっと失敗だったかも・・・ブラックにするとクリアー色が全部黒く見えて違いが分からなくなるので試してみたのですが。なんか奥行き感が失われてしまった感じがします。



キャタピラの「歯」の向きなのですが、実写でもこのように正面から見て「ハ」の字の方向で装着されています。同じ様なパターンの自衛隊の74式や米軍のM1などは「V」の字になっています。この「歯」の向きで、速度が変わるんですよ。一般的に前進方向に対し「V」の字のほうが速度が出るはずなのですが・・・中国では、こちらのほうが良かったのかもしれません。いろんな実車写真を見たのですが、この方向でキャタピラが装着されていました。泥だらけの車体下部・・・ピグメント塗りすぎちゃったかな。



ウェザリングスティックを足に乗せる箇所に、置くように塗っては塗れた綿棒で拭き取る。地味な作業を繰り返し、こんな感じになりました。もう少し埃っぽくしたほうが良かったかな・・・



で、お決まりの私の好きな砲塔を横に向けたアングルでの写真です。戦車のこのアングルはいつ見てもウツトリしてしまいます。でも、中国戦車のこの明るい緑色は・・・カエル？みたいと思うのは私だけでしょうか。



高価なキットだったので5ページも書いてしまいました。参考になったでしょうか・・・

さて、次回はまたもや旧軍シリーズです。
日本陸軍の

95式軽戦車です。またお付き合いください。